

「夏物語が終わらない」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ いろんな顔と出会うことが、そもそも幸せなのです

8月の朝、地獄坂を登っていると、急ぎ足で私を追い抜いていく女子生徒がいます。「部活動の開始時間に遅れているのかな」と思いながら背中を眺めていると正門のところで振り返り、スマートフォンで校舎とともに自撮りをしようとしています。目が合ったので「撮ろうか？」と声をかけると「あっ、先生もぜひ一緒に」と誘われたので、ふたり並んでの自撮りとなってしまいました。聞けば電子オルガン部の生徒。

「今日は練習日だから急いで登校したんですけど、みんな来られなくなったので『私は来たぞ』という証写真なんです」と笑顔で話してくれます。私が一緒に写っていることでリアリティが増すのかはよく解りませんが、利用価値があったのなら何よりです。試合等の多い運動部に比較すると、文化部の生徒との接点はどうしても限られますから、こんな時間も楽しいものです。そういうわけで栗林先生が誘ってくれた今月3日の茶道部の神戸支部研修会も喜んでお邪魔し、挨拶も依頼されましたのでこんな話をしました。

本日は暑い中、研修会のために使命感をもってお集まりいただき、ありがとうございます。その意欲をうれしく思います。今日は皆で帛紗袋（ふくさぶくろ）をつくるんですかね。素敵な作品を期待しますね。

私は茶道は不案内ですが、いつも感心させられるのはそのまっすぐな背中、姿勢の美しさのひとつひとつの動き。一般に所作といいますが指先をはじめとする立ち居振る舞いの美しさです。「そうありがたい」と思わせる力があります。茶道をとおして、そのような姿を身につけてもらえたら嬉しいですね。

また、茶道にふさわしい立ち居振る舞いをするにはいったん呼吸を整える必要があります。呼吸を整えると心は整います。これからの人生、皆さんには「この場面はきっちりと決め切りたい」と思う時が何度も訪れると思います。緊張を強いられる場面もあります。そんなとき呼吸を整え、心を整えて物事に向き合えたら、皆さんは無敵です。どうか茶道をとおして、そんな自分に真摯に近づいていってくださいね。

今日のように様々な学校の高校生が一緒になって実施する行事はそんなに多くありません。しかも意欲を持った人たちの集まりです。お互いに刺激を与え、与えられて、それぞれがひとまわり成長することを期待しています。

神戸タータンの生地を用いての帛紗袋づくり。本校がホスト校ということで、茶道部の皆さんが各校から集まった皆さんの作業を笑顔でお手伝いしている姿は実にいいものでした。支えてくださった栗林先生、西畑先生はもちろん、茶道部の皆さんの楽しげな様子に感謝の時間でした。



その2日後には神戸国際展示場で開催されたスーパーサイエンスハイスクールの生徒研究発表会を覗かせてもらいました。全国からSSH指定校が集まりポスター発表を繰り広げる一大イベント。もちろん本校の3年生もこれまでの研究の成果を堂々と披露してくれましたし、質疑応答も立派にこなしてくれました。

さて、この発表会は早朝から翌日に続く大会であったのですが、私は中座して甲子園球場に向かいました。第108回全国高校野球選手権大会の開会式のスタッフに本校合唱部の生徒が選ばれたのです。実に名誉なことですね。お蔭で顧問の久保先生、大中先生に加えて私もスタッフとして開会式に参加することになったのです。お揃いのポロシャツと白いキャップ、タオルなどを支給されて、いざ甲子園。



ちなみに合唱隊は長田高校、関西学院高校、親和女子高校、そして本校で構成され、歌うは『君が代』と『栄冠は君に輝く』。控え場所で練習を繰り返してからの出陣でしたので、開会式開始直前に笑顔の1枚です。

本音を言えば開会式で歌う姿を残したかったのですが、グラウンドでのカメラ使用は禁

止。そこで出陣直前の緊張感溢れる背中と向こうの青空を1枚。これはセーフですよ。



私たち教員3人も合唱隊とともに甲子園の土を踏みしました。かつての高校球児である大中先生には違う感慨もあったかもしれません。ちなみに私が甲子園の土を踏んだのは、もう40年以上も前のこと。西宮市内の中学生の1人として学校対抗リレーを走った時以来のこととなりますかね。そう言えば10年ほど前には同じように学校名を背負って走る息子を応援しましたっけ。時間が経つのは実に早いものです。

一方、こちらは兵庫県の高校生を代表して、開会式で見事に歌い終えた合唱部のスナップです。やり遂げた笑顔が実に清々しい1枚になりました。

さて、翌日の私は三木市内にある兵庫県広域防災センターへ。兵庫県青少年赤十字が主催する1泊2日のリーダーシップ・トレーニング・センターの開始です。自主的・自発的な行動が常に求められる環境で、県内各地から集まった中高生が共同生活を営むことでリーダーシップを育む研修。ここはJRC部の出番でした。参加者全員を前にした開会式で、挨拶を求められた私はこう伝えました。



皆さんには「気づき」「考え」「実行する」という赤十字の理念を意識して行動してほしいと思います。そのために大切なのは主体的な態度を心掛けることです。「待ちの姿勢」では人は何も変えられません。自分にもできることはないか、そう考えることが始まりです。そして、その答えに気づいた人がまず動く、その姿に魅かれ周りはずいていく、それをリーダーシップというのです。



本校から参加した3人はもちろん、多くの中高生の主体的な姿が見られるのは喜びでしたね。お忙しいなか、ホームルーム担当のスタッフとして活躍された川井先生にも感謝です。ありがとうございました。

そして迎えた8月10日は第70回全国高等学校登山大会の閉会式の会場へ。6日の炊事審査に始まり、7日から9日にかけての登山を競う長丁場の大会。審査結果は閉会式で初めて明白となりますから、必然劇的な式典となります。



主催者の方々のご厚意で壇上に座らせていただいた私は、発表の瞬間に歓喜の声をあげる会場の高校生姿を間近に見させていただきました。有り難いことです。本校は男子が24位、女子が19位という結果でしたが、全国での順位です。実に誇らしいですね。また、式典の司会などを本校山岳部員が務めてくれたことも感謝されました。そう言えば、本県で開催された近畿のバレーボール大会の式典司会は放送委員会のメンバーが務めたとのこと。関係の方々からお褒めの言葉が私の所に届いています。



蔭に日向に、華やかに控えめに多くの神高生が輝いた夏。勘の鈍い私でも当初から想像のついていたことですが、僅か2ページでは紙面が尽きてしまいました。というわけで、神高生と私の『夏物語』は次週にも続くことになります。また、来週もお付き合いくださると嬉しいです。